

アイスマンとは

アイスマンは、1991年9月19日、標高3200mのアルプスの氷河の中でミイラが発見された。調査の結果、このミイラは、約5300年前の人物であることが判明し、アイスマンと名付けられた。

アイスマン発見時の概況

発見場所：オーストリア～イタリア国境、エッターラ山脈エッターラ溪谷、標高3200m

地点のアルプス氷河中

発見者：ドイツ人登山家のジーモン夫妻

発見状況：氷河の中に閉じ込められた状態で発見され、地元の警察官に掘り出される時、削岩機によって身体の一部が破損された。

保管場所：イタリア北部ボルツァーノにある「南チロル考古学博物館」にて冷凍保存されている。

「アイスマン」に関して分かっていること

【身体的特徴】

「アイスマン」は、発見されたときの死に至った状況から、同族の内部抗争によるものとか、生贄だったなど様々な推測があり、現在も研究中である。

身長：159cm

体重：40kg

推定年齢：46歳

推定死亡原因：背後から弓矢で射られ殺害されたと推定された。

(石器矢尻が体内に残されていた)

年代測定方法：放射性炭素年代測定法

【考古学的遺物】

考古学史上、はじめて「発火道具」を持った最古の人類とされる。

服飾品：山羊やカモシカ、鹿などの毛皮で作った衣服・帽子・靴・樹皮の繊維で編んだマント

狩猟道具：銅製の手斧・長弓・14本の矢と矢筒・背負い籠のわく・短剣と蛸

発火用匂：牛皮製の袋・黄鉄鉱の粉

長久手愛知県館におけるアイスマン

アイスマンは「発火道具」を所持していた。アイスマンの子孫たちが燃やし続けた火の起こした地球温暖化によって、5300年の眠りから覚め、姿を現した。アイスマンの存在自体が人類への大いなるメッセージと位置づけ、深刻な地球温暖化を来館者にわかりやすく体感していただく長久手愛知県館「地球タイヘン大講演会」の中で取り上げられることになっている。アイスマンがよみがえって、主人公の江古野博士と語り合う演出などを予定している。